≪投稿フォーマット≫

投稿者氏名	野原　久司	投稿日	2026　年　11 月　9 日
投稿者所属	横浜労災病院　勤労者医療総合センター	投稿者の職種	医師・産業医
対象事業所の業種	製造業	（分かる場合）事業所平均年齢	歳
該当する番号を記入してください			
事業所規模	番号（　④　）	①50 人未満　②50～299 人　③300～499 人 ④500～999 人　⑤1000 人以上	
企業規模	番号（　⑤　）		
該当する番号を記入してください			
カテゴリ	番号（　⑤　）	①教育研修 ②職場環境改善 ③ストレスチェック実施 （実施後の個人対応、集団分析の活用含む） ④早期発見・早期対応、相談対応 ⑤復職支援 ⑥健康経営、体制づくりなど	
タイトル	治療と仕事，家庭生活の包括的支援を行うことで就労継続が可能となった一例		
対策関係者（産業保健スタッフ、専門職、人事労務担当等）の構成	産業医、保健師		
共同研究者（社外関係者など）	主治医		
対策の対象	従業員		
背景とこれまで行った対策、課題	治療と仕事の両立支援の重要性が増してきているなかで、メンタルヘルス不調においては仕事のみがその症状や疾病の起因となっている例だけではなく、家庭や育児・介護などの社会的因子が修飾している事例も少なくない。Bio-Psycho-Social モデルの観点から両立支援に留まらない包括的支援を行うことでプレゼンティーズムに陥らないより健全な就労継続が可能となると考えられる。		

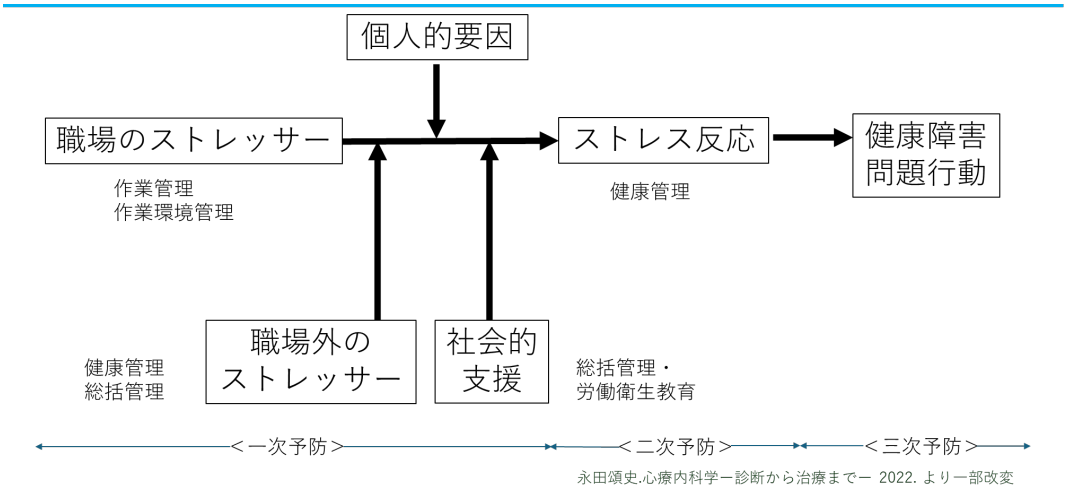
対策の目的と仮説	休職した従業員が復帰する際に包括的支援を行うことで健全な復職と復職後の就労継続ができる可能性がある。 【症例】40 歳台女性. 【現病歴】X-1 年 8 月に業務において複数部門への説得を行う場面が繰り返され、心理的負担が増していた。X 年 9 月に午後の両眼瞼の開きにくさを自覚し、同年 10 月に眼科を受診するもドライアイ以外に異常所見なかったことから産業医面談を実施した。
対策内容 ・対策時期 ・対象者数 ・実施内容 ・調査項目 ・集計方法 ※写真、図表、イラスト等は次ページに記載・貼付してください	【面談後経過】経過から脳神経内科への受診を指示し、錐体外路症状の診断となり内服薬とボツリヌス菌注入治療が開始となった。その後も眼の開きづらさは持続し、声の出しづらさも出現した。内科的な治療を継続するなかで、業務で心理的負担が増していた際に上司に相談しづらい部署の体制になっていたことや、家庭内で育児・家事負担について夫に不満を持っていることの心理・社会的ストレッサーの存在が語られ、症状の発症・持続要因の一つとして考えられ心療内科受診に至った。心療内科では抗不安薬などの薬物療法に加えて心理的負担を減らすようカウンセリングが併用となった。職場でも主治医と両立支援として連携を図り、業務上ストレッサーについては上司との相談機会を増やすことと過負荷とならないよう業務時間調整を行うこととした。家庭でのストレッサーについては、産業医面談で得た情報の主治医との共有や、母子保健の経験のある産業保健師によるサポートとして育児中の家事の負担軽減方法や完璧を目指さないことを伝えるなどの支援を行った。4 ヶ月の休養を経て、本人の了承のもとで心療内科主治医と相談し業務上配慮として業務量低減を行い、家庭要因については産業医面談の場でも支持的支援を継続した。
対策の結果 ・プロセス評価（実行に関する評価） ・アウトカム評価（結果指標に関する評価）	復職後は育児理由の時短勤務を欠勤することなく継続し、業務でも上司からのフィードバックを得ながら達成感を持つことができるよう業務内容調整を都度図った。眼瞼の開きづらさは徐々に解消しボツリヌス菌注入などの内科的治療は終了となった。心療内科での薬物療法とカウンセリングは継続し、産業医面談でもストレッサーへの対処として気分のコントロールが少しずつできるようになり、徐々に声が出るようになった。業務のパフォーマンスも落とすことなく勤務は継続でき、産業医面談の頻度を下げながら引き続き支援を図っていく方針とした。

良かったと思う点（対策のポイント）と今後に向けた課題点	業務上起因のみならず、症状の要因の一つとなっていた家庭の問題について取り扱うことで、本人の性格や考え方など全人的な目線で主治医との連携に加え包括的に支援を行うことができ、症状改善が得られたと考えられる。課題点としては、包括的な両立支援として主治医と連携を図る際には、個人情報を取り扱うためオンライン上のコミュニケーションなどで注意を要することである。その取扱いについては定型化する必要があると考えられ、今後は職場側でも口頭のみの同意ではなく書面上の同意を得ることでより安全性を担保しながら、外部医療機関や家庭などとのより深い連携が取れるかが課題となる。
参考資料	・図 1：永田頌史．心療内科学―診断から治療まで― 2022．より一部改変 ・表 1：著者作成 ・図 2：小山文彦．メンタルヘルス不調に罹患した労働者に対する治療と職業生活の両立支援，産業医学ジャーナル 33（6）：89-96, 2010 ・図 3：著者作成、Bio-Psycho-Social model

差支えない範囲で、使用した資料等を添付してください。

【写真、図表、イラスト等添付欄】

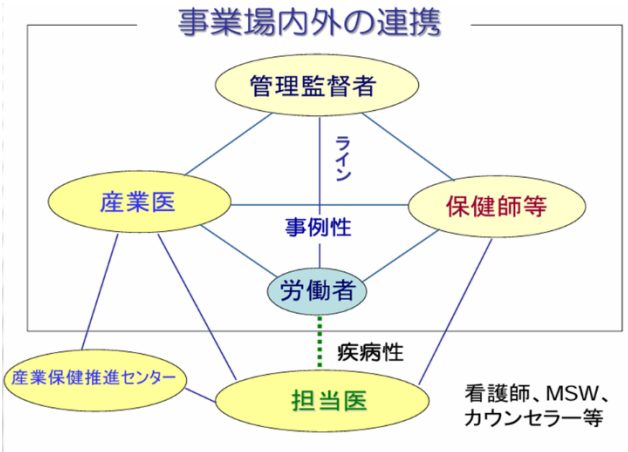
・図１：職業性ストレスモデル



・表１：本症例の包括的支援内容

	連携先	連携内容
職場ストレス	職場管理者・主治医	業務調整の相談 相談環境の醸成
家庭ストレス	主治医・保健師	聴取内容の報告 専門家へのつなぎ
個人要因	主治医・職場管理者	カウンセリング

・図２：メンタルヘルス不調に罹患した労働者に対する治療と職業生活の両立支援



・図 3：Bio-Psycho-Social モデル

